

乗雲

寺報
第118号
R4/8/1 発行

1985/4 創刊

〒959-2646 新潟県
胎内市西栄町 2-8
TEL 0254-43-2419
FAX 0254-43-4560
編集人 広厳寺
住職 神田英俊

メール
otera@kogonji.jp

とげ

坂村真民

刺さっていたのは 虫メガネで
見ねばわからないほどのとげであ
った そのとげを見ながら思った
わたしたちはもっともつと痛いと
げを 人の心に刺し込んだりして
はいないだろうか 小さな小さ
いとげでも 夜中に目を覚ますほ
ど痛いのに とれないとげのよう
な言葉を口走ったりはしなかった
かと 教師であったわたしは特に
そのことが思われた

坂村真民さんの詩をよく読ませ
ていただいています、この詩も
自分に当てはめてみると思い当た
ることが沢山あります。

新型コロナウイルスの感染拡大
も一向に収まる気配がありません
。流行り出した頃はあそこの
誰々さんが感染したそう。どん

な暮らしをしていたんだろうと
か、いじめられたそう、感染経
路はどこなんだろうとか、あれこ
れ詮索をしたり、よく事情も知り
もしないで人の心を傷つけていた
かも知れませんが、その人に不愉
快な思いをさせていたかも知れま
せん。発した言葉がその人を傷つ



袈裟 (漸恥の法服)

けていないか、相手の気持ちと思
うことが大切だとつくづく感じま
した。この「とげ」という坂村真
民さんの詩から深く考えさせられ
ました。

朝の勤行、お仏壇のお参りは毎
日欠かさないですが、その折りに
はご本尊様、ご先祖様に掌を合わ
せ、昨日一日の出来事を思い出し、
他人にどう接しただろうか、いや
な思いをさせなかっただろうか、
反省をし今日一日正しく生きて参
りますと誓います。

お釈迦様の遺言のお経である

「仏遺教経」には、「漸恥の服は諸
の莊嚴において最も第一なりと

す」また、お袈裟の功德を説いた

經典「法衣十勝利」では、「法服は

能く世の羞恥を遮い、慚愧円満し

て福を生ずる田なり」と示されて

います。人間として正しく生きて

行くには、この慚恥、羞恥心とい

う何事にも恥じ入る心、反省の念

を忘れてはいけません。「世の羞恥

を遮う」「福を生ずる田」であるお

袈裟を身に着けている我々僧侶を

はじめ、世間の人も決して他人を

傷付けるような言葉は慎まなけれ

ばなりません。「あんなことを言っ

てすまないことをした」「今度から

は気を付けよう」という反省の心

を持ち続け、他人への思いやりを

持つて人生を歩むことが大切であ

ります。

令和四年 年回忌表

〔回忌〕 〔没年〕

一周忌 令和三年

三回忌 令和二年

七回忌 平成二十八年

十三回忌 平成二十二年

十七回忌 平成十八年

二十三回忌 平成十二年

二十七回忌 平成八年

三十三回忌 平成二年

五十回忌 昭和四十八年

百回忌 大正十二年

▼令和四年度(2022)の年回忌表で
す。当寺では個人情報保護の観点か
ら本堂には張り出ししていません。

正当各家には昨年十一月中旬に通
知してしますのでご確認ください。

▼日曜・祝日のご法事の申し込みは
お早めにお願いたします。

▼「周」は「めぐる」ことを意味す
る言葉で、亡くなってからちようど

一めぐりした翌年のその日を一周
忌と呼ぶ。回忌とは亡くなられた日

を最初の忌日と考えて、三回目の忌
日が「三回忌」となる。以降は丸六

年目が七回忌、九十二年目が十三回
忌となる。三十三回忌が弔い納め。

秋深まる中で

雲泉寺住職 片野徹榮

いつの間にかやら季節も移り変わって今年も余すところあと二ヶ月となつてしまった。何とまあ月日の過ぎ去ることの早いこと、この時節になるといつも焦りを感じてくる。本年度の寺の行事も終わり、来年度の計画立案に入らなければならぬが、雪の降る前にしておかなければならない年末の作務が残っているからだ。

作務とは作業のことである。各ご寺院でも行われる庭木の剪定や掃除など、労務作業に関わることはみな作務と言っている。ご本山や地方僧堂などでは直歳(しつすい)という役僧を置いて労務を管理しているが、坐禅や法要と同様に修行の一つとして位置づけられ、特に大切にされている。インドではお袈裟の一つである五条衣を着けて作務を行うそうだから、作務は仏行としてとらえるのが正しい見方であろう。

「秋来ぬと目にはさやかに見えねども風の音にぞ驚かれぬる」と歌に詠まれるように、何時秋の到来

があったのか分からぬままに秋の深まりは早い。秋一番のイベントである全山の紅葉は、人の目を愉しませるだけでなく心を清らかにし、隣人との語らいの舞台を提供してくれる。しかしながら燃えるが如き錦の輝きも長くは続かない。吹き抜ける風に誘われて、いつの間にか路面にカラコロと乾いた音を響かせるようになる初冠雪の声も聞こえてくる。

あれこれと大脳の指令が下がるが、今やっておかなければならない落ち葉掃きがある。晴れた日の作務は実に気持ちよい。参道を掃き、境内を清めることは何にもかえられない喜びをもたらしてくれる。心がぐんと広がる思いである。この落ち葉掃きは新たな年を迎えるに当たり、寺の雰囲気も左右する。所謂、降雪があれば消雪不能になり、参道の車の通りを悪くする。(寺では山水を利用して道路の雪を押し流す方法をとっている)山水をうまく流すために落ち葉掃きは大切な作務である。もし降雪がなかったら、正月に似つかわしくない雰囲気も呈し、身も心も清らかにする初詣の意に反することになる。なれば普

段と異なる新たな緊張感が生まれることは難しい。というのは、落ち葉が参道を埋め尽くして客を迎える心が届かないということである。だから掃くのである。

観光などで遠近の神社仏閣の境内に入ると自然と身が引き締められるのを感じ、洗心の功德が得られるように思われる。そこには掃除に徹する神主さんやお坊さん達のかげがえのない尊い修行の心が息づいているからであろう。



雲泉寺に埋もれた雪

あちこちの植え込みも家々も雪

囲いが始まったであろう。雪囲いも済ませておかなければならない。降雪があるうがなかるうが、常に降るものとして行動しないとけない。雪害に遭ってからは管理不行き届きは免れない。後悔は先に立たずである。作務は外部だけにとどまら

ない。新年を迎えるための事務的な作務もこれからである。年始札の作成、年回法要の繰り出し、護持会の仕事と書き出せば限りがないが、雑務に振りまわされる年末の作務が続いていく。

作務は修行の一つ。今とは環境も違ふけれども、父である先住師匠も勤務の合間をぬって庭を掃いていた。本堂、庫裏の掃除もこまめにやり通した。年始札を版木でおこし一枚一枚心を込めて刷り上げていた。師匠は、「ただく人は一人、決して粗雑にいい加減に取り扱ってはならない。受ける人の身になって、最善の行をやらねばならない」とよく話していた。師匠の後ろ姿が見える。毎日忙しく過ごしていた後ろ姿が。まだまだ師匠の足もとには及ばないけれども、行持報恩に勤めて、師の歩んだ道を我が道として、一日一日精一杯生きて行こうと思う。

*十八教区護持会報「輪」平成二十二年一月号より転載。片野徹榮老師は本年三月二十三日遷化されました。先代師匠を思い日々作務を怠ることなく、伽藍、境内はいつも掃き清められていました。縁あって雲泉寺を継いだ恭真、徹榮老師を追慕し二十九世の法灯を護ることが報恩の道である。

大本山永平寺
高祖大師報恩授戒会

廣嚴寺住職

神田英俊

委嘱 高祖大師報恩
授戒會引請師

令和四年四月二十八日

永平現住南澤道人

このたび大本山永平寺第八十世南澤道人大禪師猊下より、令和五年四月二十二日より二十九日に修行される大本山永平寺「高祖大師報恩授戒会」の引請師のお役を委嘱されました。南澤猊下には平成二十五年当寺授戒会（檀信徒の五日間の修行）の戒師をお勤めいただいております。尚、来年のこの勝縁には、檀信徒の方も戒弟（仏弟子として一週間本山で修行する）としてご縁をいただくことができます。住職と共にご参加いただける方はお申し込みください。

柴橋庵

当寺末庵である柴橋庵は十二世祖園浄仙和尚（平成二十九年二月十日死去・佐藤百合子、後に渡辺姓）の後、庵主不在となり現在に至っている。昔をたどれば広嚴寺開山海応寿山大和尚（本寺耕雲寺十六世）が開創した庵寺であり、「菩提山源廣庵」と称していたが、いつのことからか柴橋集落にある庵寺ということから「柴橋庵」と言われるようになった。

資料によると、體中法圓和尚（宝曆九年寂）、覚豊禪了和尚（寛政九年寂）、大用玄道和尚（文化四年寂）、玉瑞貞輪尼（天保九年十月十六寂）、智外惠鏡尼（弘化元年五月寂）、玉室貞顔尼（文久三年十一月寂）、柏林祖底尼（明治二十六年十月寂）、大隣貞忍尼（昭和二年十一月寂）、祥山貞瑞尼（大正六年七月寂）、太全徳忍尼（昭和二十七年四月寂）、玉庵貞樹和尚（十世・阿部姓・昭和五十二年十月寂）、徳雲貞乗和尚（十一世・渡辺姓・平成二十六年四月寂）、祖園浄仙和尚（十二世・渡辺姓・平成二十九年二月寂）と庵寺の法灯が護持されてきた。ちなみに、私が知り得るのは十

世玉庵貞樹和尚（広嚴寺十六世哲牛善光大和尚の得度）からで、十一世徳雲貞乗和尚は広嚴寺十七世大道徳仙大和尚の弟子であり、広嚴十八



世慧運洞光大和尚とは兄弟弟子になる。そして十二世祖園浄仙和尚は広嚴十八世洞光大和尚の得度を受けている。現住広

嚴十九世は兄弟弟子になる。柴橋集落とのつながりが深い庵寺です。何とか存続していきたいものです。

梅花だより

昭和五十五年に設立された当寺梅花講は月二回の梅花（ご詠歌）練習会、全国大会、地方大会、各地講習会、検定会、親睦旅行等の活動をしてまいりましたが高齢化に伴う講員の減少で、現在休止となっております。また講員が増えて再開できればと思っています。

お唱えを聴いて

見ましよう。



仏事の知識
葬儀と告別式

葬儀は宗教儀式の事を意味する。仏教（曹洞宗）では故人に対しての授戒（お釈迦様のみ教え、お戒名、お血脈授与）に始まりそれに伴う僧侶の読経、引導を渡すまでを葬儀と言う。神道は祝詞を上げること、キリスト教は祈りの作法等です。この場合には会葬者はいなくても構いません。

告別式とは故人と遺族、会葬者が最後のお別れをする儀式です。参列者への弔電披露や祭壇前でのお別れのお焼香、出棺の際の読経、お花入れ等が告別式にあたる。葬儀と告別式は違う意味合いがあるが現在では同時進行で行われている。

ちなみに、お通夜は家族、親族、親しい友人たちが故人と過ごす最後の夜のことであり、夜通しと書くことから、集まった人たちが夜を徹して起きて故人を偲び、生前の思い出を語り合い、その素晴らしい生き方に学ぶ大切な時間です。

今までの仏事の知識はQRコードでご覧下さい。



■訃報 柴橋佐久間元廣氏逝去

七月十一日寂(享年八十八)、長年当寺役員として尽力されました。謹んでご冥福をお祈りいたします。

▼雲泉寺大練忌

五月四日午後二時より雲泉寺本堂にて寺院及び片野家親族により二十八世片野徹榮大和尚の大練忌(四十九日)法要が厳修された。導師は持倉正統寺鈴木統嗣老師が務められた。

▼円福寺住職就任式

六月二十六日、昨年七月に夏井円福寺様に入山された大澤一彦師の住職就任式が教区寺院、檀信徒により盛大に挙行された。

▼東龍寺眼蔵会開催

田上東龍寺様では令和二年、三年と新型コロナウイルス感染症拡大により休会となっていた眼蔵会(道元禅師の正法眼蔵講義・講師駒澤大学教授角田泰隆老師、今回は正法眼蔵行持巻)が七月七日〜八日開催された。

▼仏教講演会中止

十月八日予定しておりました教区護持会主催の高田都耶子氏講演会は新型コロナウイルス感染症拡大を鑑み中止となりました。

▼増慶院晋山結制式

来年五月二十七日二十八日の両日、下館増慶院様では深井大心師の晋山結制式が挙行される。現住職の深井和雄師は退董される。

墓地認可申請中(寺町側)



地目変更(宅地を墓地に変更)を所轄庁に認可申請中です。これから広厳寺境内墓地として活用する予定です。

工事報告

- ・墓地造成工事 五月十九日〜三十日 高橋土建
- ・墓地止水工事 五月二十六日 宮島工業所
- ・墓地ブロック塀工事① 六月三日〜四日 井上材木店
- ・墓地境界フェンス工事 六月十六日〜二十五日 大久保商店
- ・墓地ブロック塀工事② 六月二十九日〜七月七日 高橋土建

お寺からのお願い

▼ゴミは必ずお持ち帰りください。お墓参りの際にはゴミ入れ用のビニール袋などを持参して、ビニール類、紙類、お花以外の生ゴミ(果物、菓子)等は必ずお持ち帰り下さい。参道脇の自然ゴミ(花、草、落葉、枯れた樹木類)は墓地掃除で集めたゴミです。何も捨ないでください。

▼花を包んである紙、花を縛ってあるビニール紐、アルミホイル、ラップ、発泡スチロール、トレイ、プラスチック、ナイロン等や、墓掃除の雑巾、タオル、洗剤容器、軍手、ビニール手袋等は持ち帰って燃えるゴミとして町のゴミ収集車に出してください。自然ゴミと町に出すゴミの分別をお願いします。

▼古塔婆は参道中に古塔婆入れがありますのでご利用ください。集落墓地の古塔婆も受け入れます。

*四月二十八日、五月二十五日、七月十一日(計三回)境内墓地の除草剤散布作業を行いました。

堂内全面禁煙

ご協力お願いいたします。

寂光塔(永代供養墓地) 一人暮らしの方、お墓継承にお悩みの方、お寺が永代にわたり供養いたします。



寂光塔(永代供養合同墓所)

動物供養塔(ペット墓地) 動物のお骨を埋葬いたします。檀家さん以外でも納骨供養できます。



動物供養塔(ペットのお墓)

